

# 歴史と経済

## 第 241 号

LXI —1 2018・10

### 論 説

- 官営八幡製鉄所の販売部門—八幡製鉄所疑獄事件の背景と影響— 谷川 みらい (1)
- 論点をめぐって  
帝国主義論の盛衰—宇野理論の視座から— 江原 慶 (20)
- 書 評  
粟倉大輔著『日本茶の近代史—幕末開港から明治後期まで—』 満 蘭 勇 (30)  
今村家文書研究会編『今村家文書史料集 上巻 中世～近世編, 下巻 近代編』 中 西 聡 (32)  
川分圭子著『ボディントン家とイギリス近代—ロンドン貿易商 1580-1941—』 河 合 康 夫 (34)  
桑田学著『経済的思考の転回—世紀転換期の統治と科学をめぐる知の系譜—』 佐藤 方 宣 (36)  
藤原敬士著『商人たちの広州—一七五〇年代の英清貿易—』 本 野 英 一 (38)  
川分圭子・玉木俊明編著『商業と異文化の接触  
—中世後期から近代におけるヨーロッパ国際商業の生成と展開—』 石坂 昭 雄 (40)  
堀口健治編『日本の労働市場開放の現況と課題—農業における外国人技術実習生の重み—』 友田 滋 夫 (43)  
高木久史著『近世の開港と貨幣統合—三貨制度への道程—』 福田 真 人 (45)  
平井健介著『砂糖の帝国—日本植民地とアジア市場—』 加納 啓 良 (47)  
磯田宏著『アグロフェュエル・ブーム下の米国エタノール産業と穀作農業の構造変化』 堀口 健 治 (50)  
田嶋信雄・工藤章編『ドイツと東アジア—一八九〇—一九四五—』 大津留 厚 (52)  
D・エジャントン著／坂出健監訳『戦争国家イギリス—反衰退・非福祉の現代史—』 竹内 幸 雄 (55)  
戸石七生著『むらと家を守った江戸時代の人びと—人口減少地域の養子制度と百姓株式—』 大栗 行 昭 (58)  
沼尻晃伸著『村落からみた市街地形成—人と土地・水の関係史 尼崎 1925-73 年—』 高 嶋 修 一 (60)  
木下光生著『貧困と自己責任の近世日本史』 大 杉 由 香 (62)  
川瀬泰史著『シャハト—ナチスドイツのテクノクラートの経済政策とその構想—』 柳 澤 治 (66)  
禹宗杭・連合総研編『現場力の再構築へ—発言と効率の視点から—』 上 井 喜 彦 (68)  
齋藤修著『環境の経済史—森林・市場・国家—』 飯 田 恭 (71)
- 会 報  
2018 年度春季総合研究会報告：財産権と経済活動 (74)  
学会賞 (2019 年) 選考対象の推薦募集 (77)  
2018 年度関東部会研究会報告 (78)  
2018 年度中四国部会研究会報告 (78)  
2018 年度東海部会研究会報告 (78)  
英文抄録 (79)

政治経済学・経済史学会